

「あいわく」



議長 下川 正剛

議会報発刊100号を記念し、議会を代表して一言ご挨拶申し上げます。

昨年3月11日に発生した東日本大震災から1年が過ぎました。亡くなられた方と行方不明者の方は併せて約1万9千人。さらに原発問題が発生し、未曾有の大災害となりました。亡くなられた方々のご冥福と、被災された方々のご一日も早い復興を願うところであります。

さて、白馬村も合併して五十有余年が経過し、山岳観光リゾート地として大きく発展してまいりました。今年、白馬村はスキー伝来100年の歴史を迎えます。平成10年には長野オリンピックが開催され、全世界にアルプスの街白馬をアピールすることができました。寒村であった白馬村を、観

光地としての礎を築いていた先人の方々のご労苦に、衷心より敬意と感謝を申し上げます。

昭和62年議会報第1号が発刊され、全村挙げてオリンピック誘致活動の展開中との記事がありました。以来先輩議員の皆様や、村民の方々の協力をいただき記念すべき100号を迎えることができましたことに、感謝を申し上げます。

我々議員も村民の代表であることに自覚を持ちながら、議会の活動状況や審議内容を、村民の皆様と正しく詳しくお知らせし、理解をいただく重要な役割が「議会だより」です。昨年、区長会・老人クラブ・婦人会・商工会等の諸団体と懇談会を開催し、皆様方の声を積極的に村政に反映するよう努めているところであります。

今後とも議会に対して更なるご意見、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつといたします。

議会報発刊 100号に寄せて



白馬村長 太田 紘熙

昭和62年に創刊号を発刊して以来、年4回の議会報が本年3月で100号という大きな節目を迎えたことは、誠に意義深く、ご同慶に堪えませぬ。歴代の編集委員の皆様のご努力に、敬意を申し上げます。

この25年間に、我が国の政治、経済共に大きな変革をいたしました。半世紀にわたる自民党政権が崩壊し、2009年民主党政権が誕生したものの、内政外交ともに不透明な状況が続いております。

地価高騰に始まったバブル景気と、スキーブームの到来は、我が村のスキー観光に大きな恩恵をもたらし、1998年の長野冬季オリンピックのスキー競技のメイン会場地となり、その名前は世界に向

けて発信されました。村民は、オリンピック後のスキー観光に大きな期待をしましたが、80年代後半からのバブル景気は去り、期待したオリンピック後の景気回復の兆しはうかがえたものの、サブプライム問題、リーマンブラザーズの経営破綻、ユーロ圏の信用不安に加え、3月11日の東日本

住民の考えを反映できる、住民参加型の議会活動が望まれる時、議会報は住民と議会との関係づくりに極めて重要な役割を持っています。創刊100号という節目を契機に、さらなる情報公開に努め、充実した議会報としていただくことを期待し、お祝いの言葉といたします。

大震災による放射能汚染の問題で、海外からのお客さまはその後急激に減少傾向を示し、スキー観光は大変厳しい時代を迎えています。

こうした厳しい社会情勢と相まって、村民の行政、議会に向けた目的は厳しいものがあります。



議会本会議での村長と議長 3月6日